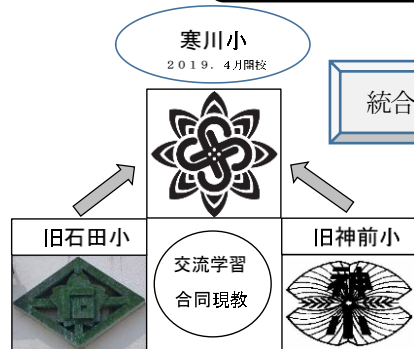


1 研究主題

自ら学び続ける学習習慣を身に付けた子どもの育成  
～「つながり」を意識した授業づくり、学習環境づくりを通して～



統合初年度！

子どもの実態

寒川スタイル確立へ

- 学習意欲の継続が難しい。(次時や家庭学習)
- 学びのつながりや広がりや課題
- 学習状況調査の結果が伸び悩んでいる。
- 基礎的な学力をつける必要性
- 睡眠時間や家庭学習の時間が短く生活習慣の形成にも課題

2 研究の具体

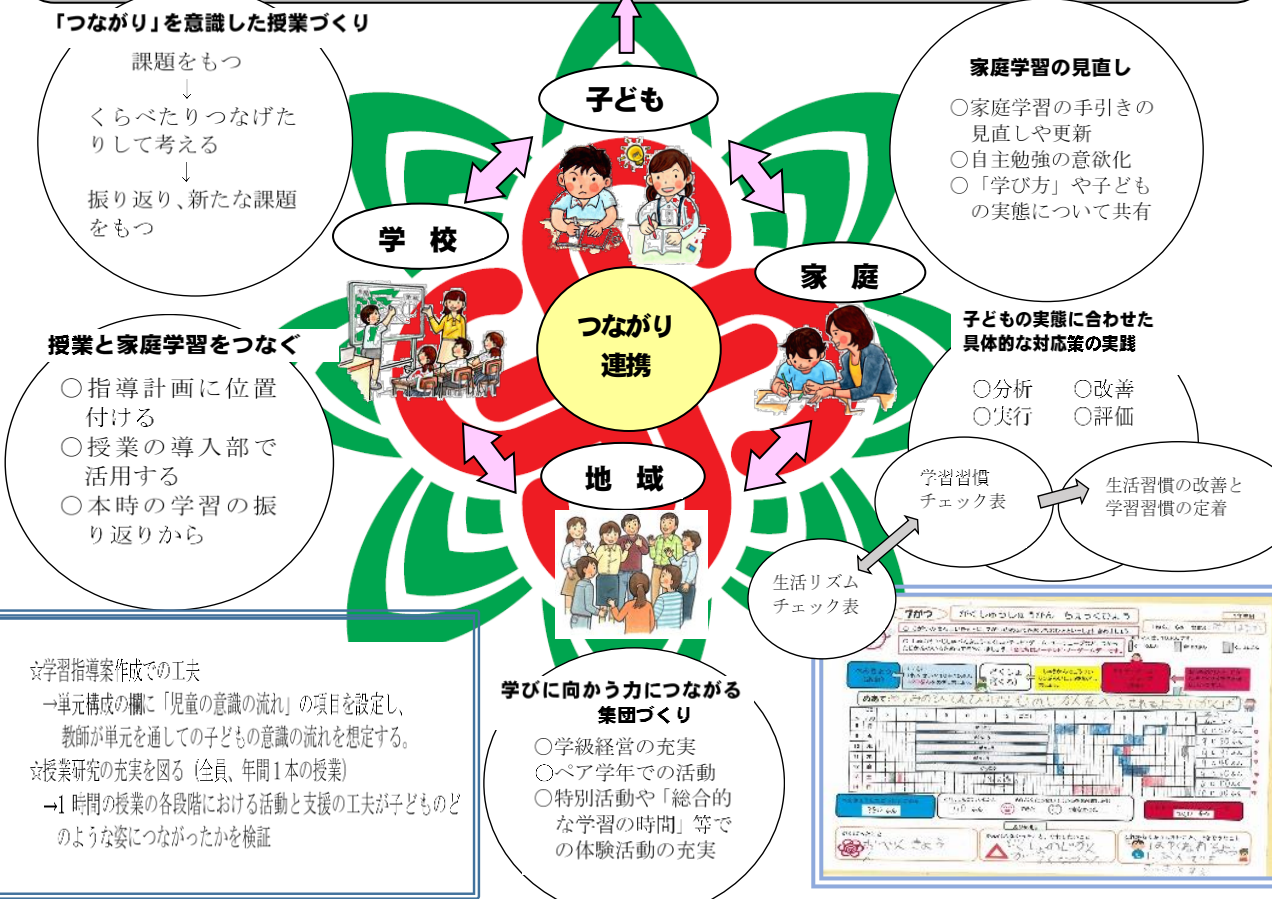
めざす子どもの姿

**さん** 賛辞と感謝を伝える子

**が** がまん強くきたえる子

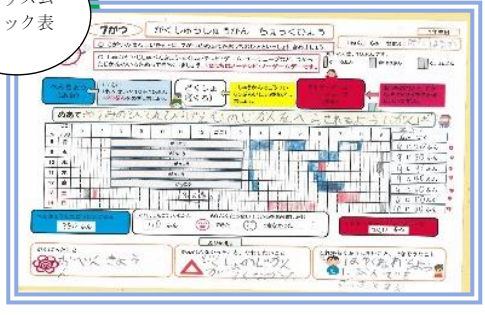
**わ** わかるまで学ぶ子

- ・既習の知識・技能や生活経験等をもとに、解決すべき課題を設定し、課題解決に向けて挑戦する子
- ・自分の生活時間の使い方について課題を見つけて改善し、自分に合ったよりよい学習習慣を身に付けようとする子



☆学習指導案作成での工夫  
→単元構成の欄に「児童の意識の流れ」の項目を設定し、教師が単元を通しての児童の意識の流れを想定する。

☆授業研究の充実を図る(全員、年間1本の授業)  
→1時間の授業の各段階における活動と支援の工夫が子どものどのような姿につながったかを検証



3 成果と課題・改善の手立て

授業研究、学習習慣チェック表の活用や分析を通して、子どもの実態把握ができ、チェック表の内容や、支援の方策の更新が続けている。児童アンケート「計画を立てて勉強していますか」の項目で、「よくしている」と答えている割合が低いと、県版テスト等での成果につながっていないという結果が出た学年がある。一方、その割合が高くても、思うような結果にならない学年もある。子どもが学び方やその結果から、自らのレベルアップを実感できるような学習環境づくりをさらに考える必要がある。

